校長室だより～燦燦～ №８５９

表現者を育てる授業その３

2023.9.30

若い中学国語教師とともに

本書では、自分の実践を振り返っています。そこには、内容掲載の方針として、「中学国語教師のためのガイドブック」という視点を入れてあります。これからの国語教育界を支えていく皆さんにとって、少しでも役に立つものになればという思いです。自分が先輩方に教え導いていただいたことへの感謝の思いを込めながらとなります。

中学校での実践が主ですが、私には幸い、小学校と高等学校そして海外の日本人学校での経験もあります。加えて、県教育センターでの勤務を通して、県内の多くの先生方と接してきた貴重な財産もあります。これらを総動員して、充実した内容になるよう工夫したつもりです。

本書は、ディベートとの出合いをきっかけに、じっくりと考え、書いたり、話したり、話し合ったりすることで、表現できる生徒を育成しようと、２０年にわたり積み上げてきた授業実践をまとめたものです。若かった頃の私のように、日々の国語の授業で悩み苦しみながらも、何とかしたいともがいている先生方にとって、灯台のような存在になれれば幸いです。

２０２３年（令和５年）５月

風薫る初夏の朝に　　高澤　正男

３号にわたり掲載してきたのは、ある書籍の「はじめに」の原稿である。書籍の名は、『表現者を育てる授業　－中学校国語実践記録－』である。著者は私である。

まだ私が若かった頃のことである。依頼されて国語の月刊誌に原稿を載せたことがあった。それを読んだある出版社の方から連絡がきた。「本を出しませんか」驚きとともに多少の喜びはあった。しかしである。本を出すといっても、何をどうしたらいいのかさっぱりわからない。その当時は、世に出せるような実践記録もあまりなかった。とりあえず、出版社に連絡を取り、説明を聞いてみた。「これは、無理だ」それが結論だった。

毎年、その出版社からは資料が届いていた。そのため、頭の片隅には、ずっと本の出版のことがあった。２０年にわたり、国語の授業を行ってきたおかげで、いつの間にか実践資料も増えていった。それでも、本を出そうなどという大それたことは考えもしなかった。

ところが、人というのは、頭の隅っこにあるだけで、自然とそうなるように行動するらしい。私の場合は、二度にわたる大きな地震と、退職のときが近づいてきたことが、きっかけとなった。地震のおかげで、思いがけず昔の資料が出てきた。また、退職という一つの区切りを目前にして、何かしたくなってきた。

（次号に続く）